

今後の見通しのポイント

夏シラス：前年並～下回る。
カタクチイワシ：前年並～上回る。
マイワシ：前年を下回る。

1. 海況の概況

○水温(大阪湾、10m層)

本年の大阪湾の水温は1月～3月は平年並み、4月以降は高めとなっています(図1)。今後の大阪湾の水温は、気象予報等から判断すると平年並み～高めで推移すると考えられます。

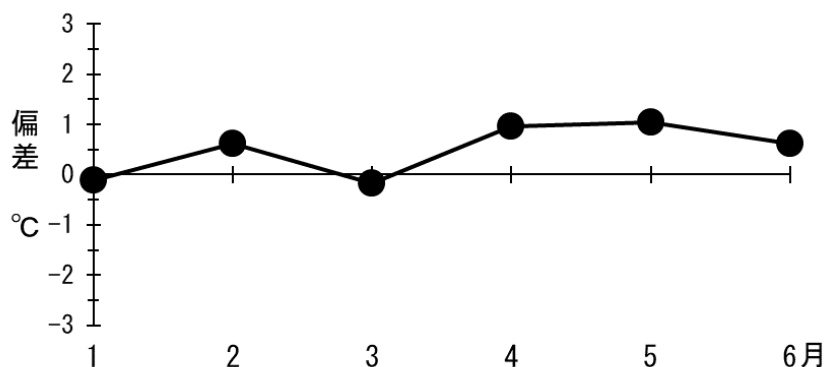


図1 大阪湾の水温平年偏差 (10m層、20 定点平均値)

○黒潮(潮岬正南沖)

潮岬沖の黒潮は、2017年の8月以降、離岸傾向が継続し、本年に入っても6月上旬まで大きく離岸する状況が続いています(表1)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中は潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里(1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2019年	98	113	109	118	115	106	94	48	93	66	96	113
2020年	115	121	149	159	235	263	183	115	243	40	88	158
2021年	88	109	105	106	119	83	101	131	144	155	166	185
2022年	176	156	150	166	174	150						

※2022年6月は月上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

(1) 夏シラス (6月後半～8月)

・春シラス (6月前半まで) 漁況の概況

本年の大阪府における春シラス漁は、5月6日から本格的に出漁が開始されました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況にあり、5月中旬まで漁獲は低調に推移し、前年同時期を下回りました。しかし、5月下旬以降、湾内発生とみられる群の加入がみられ、低調だった前年同時期を大きく上回る漁獲が6月中旬まで続いています。なお、シラスの種組成は、5月はカタクチシラスが9割近くを占め、6月にはカタクチシラスのみとなりました。

・カタクチイワシ卵の出現

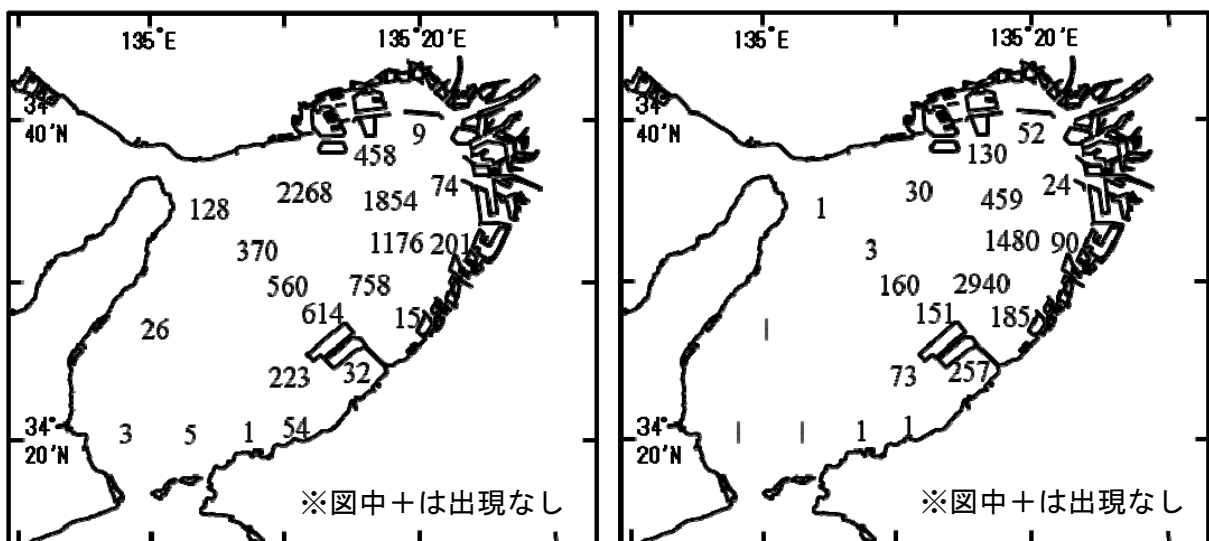
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、5月はプランクトンネット1曳網当たり441粒、6月は同302粒でした。これらを前年、平年と比較すると、5月は前年の72%、平年の1103%、6月は同じく123%、393%となり、5月は前年を下回りましたが、平年を大きく上回り、6月は前年並みで、平年を上回りました。

卵は、湾北東部に多く出現しました(表2、図2)。なお、カタクチイワシ稚仔の採集数は、5月は前年の59%、6月は28%と、いずれも前年を下回っています。

表2 カタクチイワシ卵の採集数 (本年は速報値)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	2	40	77	34	28	21	5	2	0.4
過去5年	0	0	0	48	218	202	82	61	36	27	19	2
前年	0	0	0	152	610	246	176	193	57	45	16	0
本年	0	0	0	35	441	302						

平年値 : 1985-2019 (35年) の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数 (粒)



2022年5月

2022年6月

図2 カタクチイワシ卵の採集数 (プランクトンネット1曳網あたり)

・漁況予報

大阪湾における夏シラス漁は、外海発生群(紀伊水道を通過して大阪湾に來遊する)が春シラスに引き続き漁獲されるのに加え、大阪湾内発生群が6月以降シラスとなって漁獲物に加入します。

黒潮は本予報期間中も離岸傾向が続くことが予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり期待できません。一方、現時点における大阪湾内での発生群は、6月の卵稚仔の出現状況から前年並みの水準と推測されます。なお、前年の漁期後半は、7月の卵採集数も多く、平年を大きく上回る好漁となりましたが、本年の漁期後半の漁獲は現時点で不確実な状況です。

以上から、**本年の夏シラス漁は、前年並～下回る漁況となるでしょう。**

(2) カタクチイワシ

大阪湾におけるカタクチイワシ漁では、漁期当初は前年発生¹の1歳魚が、その後、春季にシラスとして加入した0歳魚が漁獲の主体になります。

前年発生¹の1歳魚(体長10cm前後)については、本年春季における漁獲は前年を上回りました。さらに、本年の春シラス漁は、漁期後半に漁獲が伸び、前年同時期を上回る漁獲となったことから、0歳魚の湾内への加入については前年を上回ると見込まれます。これらのことから、**本年のカタクチイワシ漁は、前年並～上回ると考えられます。**

(3) マイワシ

マイワシの全国漁獲量は昭和63年に450万トンもありましたが、平成17年には3万トンまで減少しました。その後は3～8万トン程度の低水準にありましたが、近年は増加傾向がみられます。

大阪府においては昭和62年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、平成10年には最も漁獲量の多かった昭和57年の1000分の1にまで減少しました。現在も依然低水準ですが、平成18年以降若干回復傾向もみられ、平成27年以降、まとまった漁が続いています。

国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本年春季(2、3月)の外海域におけるマイワシの産卵量は前年を下回りました。また、大阪湾内では春シラス漁の前半の状況から、外海からのシラスの加入が少なかったことに加え、マシラスの混獲も少なかったことから、大阪湾内への流入は前年を下回る水準であったことが推測されます。

このようなことから、**本年の大阪湾におけるマイワシ漁は前年を下回ると考えられます。**

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋シラス漁の漁況予報については昨年同様9月、11月に再度発表する予定です。参考にしてください。